



岡山県原水協通信

2015年 8月 17日 No351
原水爆禁止岡山県協議会
700-0981 岡山市北区西島田町 4-25
TEL086-244-4526 (F)805-6172
kenmin@po5.oninet.ne.jp

被爆70年

2015年世界大会広島5500人 長崎6000人参加

被爆70年目の2015年原水爆禁止世界大会は8月2～4日の国際会議から、4～6日の世界大会・広島、7～9日世界大会・長崎と開催されました。

大会には国連や各国政府代表をはじめ20か国140名を超える世界の反核・平和団体の代表と国内からは広島大会5500人、長崎大会6000人が参加し、被爆70年にふさわしい大会として成功しました。

国際会議宣言は「戦後の世界政治の原点・国連第1号決議（核廃絶）とそれに根ざした日本国憲法9条に基づき、被爆者とともに再び戦争をするな、ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな」と運動を強く被爆70年を「核兵器のない世界」への転機にしようと呼んでいます。また、NPT再検討会議の重要な到達点を築いた背景は、世界各国の世論と運動であり、いま「核抑止力」論を打ち破ることが今後の運動の前進にとって重要なことであると指摘しています。そして被爆の実相の普及と核兵器禁止条約の交渉開始を求める世論を発展させようと呼びかけました。

（写真上・広島大会、下・長崎大会の様子）



分科会全体会で 多彩な草の根の運動を交流



広島大会、長崎大会とも海外代表の発言に続き、国内のさまざまな運動が報告・交流されました。

8月4日広島大会初日の「国内外の若い世代からの発言」コーナーでは岡山県原水協を代表し中島正智さん（県人権連）が「NPT再検討会議への参加を通してメンバーの団結が強まり、平和行進でのタスキリレーなど新たな若い担い手が作られた」とNYでの“うらじゃ”メイクで発言しました。大会は15の分科会で全国の草の根運動を交流しました。全体会でも辺野古への新基地建設反対でたたかう沖縄の発言、米軍横田基地へのオスプレイ配備反対でたたかう東京原水協、兵庫県原水協は外国軍の寄港に核兵器を搭載していないことの証明を義務付ける「非核神戸方式」の運動の教訓などの発言が相次いでおこなわれました。（写真・全体会でうらじゃメイクで発言する中島さん 8/4 広島）